

## 総 務 委 員 会 記 録

令和 8 年 8 月 24 日 (月)  
13 時 30 分～15 時 07 分  
第 1 委 員 会 室

【委 員】沖田委員長、柳楽副委員長、  
戸津川委員、岡本委員、佐々木委員、西田清久委員、川神委員  
【議長・委員外議員】澁谷議長  
【事務局】森井書記

---

### 【議 題】

- 1 行政視察を終えて（委員間で協議）
  - (1) 委員派遣報告書について
  - (2) 行政視察レポートについて
- 2 【取組課題】防災・減災について（委員間で協議）
- 3 議会による事務事業評価について（委員間で協議）
- 4 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[ 13 時 30 分 開議 ]

○沖田委員長

ただいまから総務委員会を開会する。出席委員は 7 名で定足数に達している。それではレジュメに沿って進める。

1 行政視察を終えて

(1) 委員派遣報告書について

○沖田委員長

資料 1-(1)を参照されたい。

8 月 4 日から 6 日にかけて実施した気仙沼市と仙台市の行政視察の報告書について、各委員から提出された調査結果や所感を取りまとめた。正副委員長で委員会の考察、今後の取組に向けての案を作成し、全体として報告書案として作成したものである。これについて、本日意見を求め、協議し修正点があれば反映していきたい。

それでは、意見等あればお願いします。

16、17 ページの委員会の考察が主になるかと思う。

今回の 8 月 4 日からの行政視察を踏まえて今後の取組課題、提言に向けてになるのかどうかもあるが、大きな柱になってくるのではないかということで、正副委員長で素案を出したところである。

ここで暫時休憩する。

[ 13 時 32 分 休憩 ]

[ 13 時 35 分 再開 ]

○沖田委員長

休憩前に引き続き会議を再開する。

意見もないようなので、協議した内容を正副委員長で反映させたので、これを議長に提出する流れで進めたいが、良いか。

( 「異議なし」という声あり )

それではそのように進める。

(2) 行政視察レポートについて

○沖田委員長

資料 1-(2)を参照されたい。

これは全員協議会で説明する資料のパワーポイントである。正副委員長で素案を作成した段階なので、確認してもらい、意見等あればお願いします。

○西田清久委員

気仙沼市の調査項目が「人材育成と市民が主体のまちづくりについて」となっているが、「市民が主役のまちづくり」に訂正してほしい。

市民が「主体」ではなく、市民が「主役」のまちづくりのつもりでいたが、「主体」と打ち間違えていた。これが本来のテーマであるので、了解が得られれば訂正してほしい。

**○沖田委員長**

事務局、2 ページ目の1 番のところ、「市民が主体」ではなく、「市民が主役」のまちづくりに修正をお願いする。

**○柳楽副委員長**

ということは、6 ページの委員会の考察の②の土壌づくりのところにある市民主体のまちづくりの出発点であるということも主役に変えた方が良いということか。

**○西田清久委員**

そうである。

**○沖田委員長**

ほかにあるか。

( 「なし」という声あり )

ないようなので、「主体」を「主役」に文言修正したもので、9 月 1 日の全員協議会で、柳楽副委員長から報告ということで進めていきたいが良いか。

( 「はい」という声あり )

それではそのように進める。本日の協議内容を正副委員長で反映させタブレットに配信するので、よろしくお願いします。

## **2 【取組課題】防災・減災について**

**○沖田委員長**

これまで所管事務調査、自主防災組織へのヒアリング、防災士連絡会との意見交換会、そして今回の行政視察等を実施してきた。

提言の方向性やその時期、これからどのように進めていくか協議したい。意見があればお願いする。

一言で言えば今、市においてできてない取組であるということが 1 番になると思う。

提言の時期、中間報告をやったらどうかということと、課題に対する解決ということになるか。

まず、浜田市の防災においてできてない取組というか、やるべきという意見を出してもらうのが 1 番良いと思っている。

**○岡本委員**

仙台市の視察及び防災士との意見交換を通じて、本市における防災士の位置付けや意識に乖離があると感じた。現状、防災士に避難所訓練のリーダーを担ってもらうことは難しく、市民へのアピールとしてもハードルが高いと考える。

したがって、仙台市の事例を参考に、防災士に軸足を置くのではなく、地域防災リーダー（SBL）の育成や、それを主導する地域防災組織のような新たな仕組み（結び目）を構築することが必要ではないか。これらの点を含め、今後の協議の中で検討していくことを提案する。

### ○戸津川委員

先日、防災イベントに参加したが、親子参加などうまく運営されていた部分で、被災状況の展示は頑張っていた。防災意識を持ってもらうのは大事であり、防災意識の向上という高いハードルは当然大事だが、最初から高いハードルを設けるのではなく、こうした身近な親子活動から段階を踏んで少しずつ住民の意識を高めていくことが重要である。

千葉の大雨、熊本地震など、近年自然災害が頻発しており、いつどこで災害が起きてもおかしくないという危機感を住民に持ってもらう必要がある。そのためには、災害時にはどう行動すべきかについて、じっくりと時間をかけて住民の意識を高める地道な取組を進めていかなければならない。

また、その取組の一環として、専門的な知識や経験を持つ有識者の話を直接聞く機会を設け、そこから意識啓発を図っていくことも有効であると考える。

### ○柳楽副委員長

今、戸津川委員が言われた専門的な知識のある方の講演会については、この間の自主防災組織の総合防災訓練の反省会・意見交換会があったときに、来ていた自主防災の方も、きちんと知識を持つ講師を招いてやるべきだという話をされていた。

きちんとそういったところが分からずに、ただ恐れていても、あまり実感として湧かないのではないか。

先ほど岡本委員も防災士との関連を言われていて、実際に防災士にどう動いてもらうかというところの明確なものがないというところで、例えば避難所の運営も、それぞれ自主防災組織から推薦で受けられたりという状況はあるので、そういったときの中心的な役割であったり、その運営自体をその人がしないにしても日頃から運営ができるような体制を学んでいただける機会を設けてもらうなど、積み重ねでやっていくしかないのではないか。行政としてそういった仕組みをきちんと示すべきであると思う。

### ○佐々木委員

いろいろ防災の意見聴取や調査をやってきたが、1番印象に残っているのは防災士会との意見交換会の話である。

今回の委員会のテーマも自主防災組織の取組や進め方などを市側にどう進めていけば良いかということだと思うが、自主防災組織の方々に活動内容について市の担当から具体的な取組、要望が来ないということで、町内会や自主防災会での取組をどうやるか分からないというのが現状であり、それが多分1番大きな課題だと思っている。

各地域の自主防災会や町内会に、できることをやってくださいというだけではな

かなか進まない。具体的なところをやりやすいところから市から教えるというか、推進の仕方を示す必要があると感じた。

### ○川神委員

皆と大きく異なることはないが、1点目は、防災意識の向上である。「自分は絶対大丈夫だ」というバイアスを根底から見直し、意識を転換することが防災の最大の入り口である。住民が災害を自分事として捉え、体感できるような方策について、当委員会でもより真剣に考えていく必要がある。

2点目は、仕組みづくりである。岡本委員も言っていたが、自主防災組織は設立するだけでなく、形骸化を防ぎ維持するためのバックアップ人材やサブ組織の配置が必要である。その上で、マイ・タイムラインの作成や、LINEを活用した段階的な情報伝達など、具体的なアクションに結びつける展開についてさらに議論する余地がある。

もう1点、避難所の問題である。

設備の不足に加え、ハザードマップに掛かっているなど、そもそも避難所として本当に安全なのかという検証が進んでいない。通信環境や避難ルートの安全性も含め、執行部と連携して避難所の総ざらいを行い、「ここなら間違いない」と言える指定に見直していくことが当委員会の重要な課題である。

### ○西田清久委員

各地域でのヒアリングを通じて、本市の広い市域や地理的条件、過去の被災経験の有無により、地域間で防災意識に「熱いところと冷めているところ」の明確な差があると感じた。

災害が想定しにくい地域も含め、地震や風水害、密集地での火災など、地域ごとに起こりうる最悪の状況を具体的に想定し直す必要がある。あらゆる災害リスクを表面化し、地域で主体的に考えるプロセスを経ることで、その地域に合った防災リーダーや防災集団、さらにその上の組織体制が見えてくるのではないかと。

現実には起こりうる災害の想定を深めることが、結果として浜田防災リーダーや防災士などの人材増加をもたらし、仙台市の視察で学んだような住民の意識改革に結び付くと考える。

### ○沖田委員長

皆の意見を一通り聞く中で、行政視察レポートの15ページ、最後の全体考察を参照されたい。

自主防災組織6団体と意見交換したときに共通しているのが、組織を作ったものの、まず何をして良いか分からないというのが1番の課題だろうという認識を持っている。

そういった中で防災は、災害を経験した地域としていない地域で温度差があると思うので、それを一言で分けると短期的目標、中期的目標、長期的な目標というように分けて考えた方がやりやすい。初期、中期、後期でも、レベル1、レベル2、レベル3でも良いが、何らかを示した方が執行部側も動きやすいのではないと思う。

今後、執行部に対する提言案をまとめるに当たり、短期的目標、中期的目標、長期的目標に分けて意見集約を行うことで、より良い提言になるのではないかと考えている。そのような進め方で協議を進めさせていただきたいが、良いか。

( 「はい」という声あり )

事務局、短期目標・中期目標・長期目標という分け方で、フォーマット様式の配信をお願いします。提出期限をどうするか。

#### ○森井書記

今回の委員会が9月1日の6月定例会議の初日であるが、ここで議論するのであれば、今週の木曜日又は金曜日までに提出してほしい。その次の委員会は9月9日である。

#### ○沖田委員長

9月9日の委員会での議論で良いと思う。締切りを9月1日として、各委員は、今浜田市がやっていくべきというものを短期的・中期的・長期的なものに分けて示していただきたい。それで進めていきたいが、良いか。

( 「はい」という声あり )

ではそのように作成をお願いします。

議長、ここまでのところで何か意見はないか。

#### ○議長

2年間の委員会で定例会議は8回ある。今度の9月が4回目で折り返しになる。

9月定例会議が終わった後の全員協議会で各常任委員会をお願いをする予定である。政策討論会を開催し、全議員の了解を得て、議会全体の総意として執行部に提言ができれば理想であるが、そこまでいかない場合には、常任委員会で、今委員長が言ったように、少なくとも執行部に対しての提言をお願いしてもらいたいと思っている。

私も今回の視察に同行させていただいて、その地域の指定避難所に避難したばかりに亡くなった方がいるという反省の説明を受けたときには、かなりショックであった。

避難所は水害のときの避難所と、地震のときの避難所は地域によっては変えた方が良い場所にある可能性があるのではないか。したがって避難所を各地域でもう一度精査をして、この委員会でこちらの方が良いということで提案しても良いかもしれないし、現実問題としての対応を一步踏み出して、執行部に提言をする方法もあると強く感じたところである。

この委員会では、順調に最初の四国への研修から始まって、今回の一貫性のある提言に向けての視察のパターンになっているので、期待している。よろしく願います。

### 3 議会による事務事業評価について

#### ○沖田委員長

前回の委員会において、評価対象である地域支え合い生活支援事業の活用実績のある七つのまちづくり推進委員会にヒアリング調査を行うとともに、そのうち 1 か所に対して意見交換会を行うことになった。

その後、アンケート調査については実施し、各団体から回答を得ている。

資料 3-(1)が集約した一覧表で、資料 3-(2)がそれぞれの団体から提出されたアンケートの回答である。

なお、意見交換については、執行部の担当課から久佐地区まちづくり振興会を紹介いただき、本日 16 時から意見交換をする予定なので、よろしくお願いします。

まず、アンケートの結果等を踏まえて、各委員から所感や意見について発言していただき、認識を共有していきたい。発言がある方はお願いします。

ここで暫時休憩する。

[ 14 時 07 分 休憩 ]

[ 15 時 06 分 再開 ]

#### ○沖田委員長

会議を再開する。

この事務事業評価については、議員全員が議員事務事業評価シートを作成するとともに、9月定例会議中の委員会において、委員会として議会評価意見書を作成しなければならない。

このため、次回の委員会までに各委員において議員事務事業評価シートを作成していただき、委員会の中で持ち寄って、委員会として議会評価意見書案のたたき台を作成したいが、良いか。

( 「はい」という声あり )

そのように進める。この後の久佐地区まちづくり振興会との意見交換会の内容も踏まえて作成をお願いします。後ほど事務局から様式データを送付してもらう。

次回の委員会は9月1日火曜日である。提出期限は8月27日木曜日の午後2時としたいのでよろしくお願いします。

#### 4 その他

##### ○沖田委員長

その他委員から何かあるか。

( 「なし」という声あり )

ないようなので、以上で総務委員会を閉会する。

[ 15 時 07 分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第 65 条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務委員会委員長 沖 田 真 治